

会議録		令和7年9月3日作成	令和11年3月末日廃棄
会議名	京都府上京警察署協議会（令和7年度第2回）		
開催日	令和7年9月2日（火曜日）		
時間	午後4時30分から午後5時45分までの間（75分）		
場所	京都府上京警察署 署長室		
出席者	坂本会長、出嶋委員、瀬野委員、谷本委員、森本委員、清水委員 (欠席 栗原副会長、吉田委員、安藤委員)		計6人
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 交通課長、警備課長、広聴相談係長		計10人
諮問事項	1 警察官殉職事件の概要 2 地域警察官の装備資機材		
会議内容	1 署長挨拶 2 会長挨拶 3 清水委員挨拶 4 協議 (1) 諒問事項説明 警察官殉職事件(昭和59年発生京都・大阪連続強盗殺人事件)の概要 ~広聴相談係長 【委員】 本当に貴重なお話であった。 今後、我々も含めこの殉職事案を忘れてゆき、全然知らない方がほとんど になっていく。慰靈碑は永久的に守り続けるべきだと考える。 守り続ける方法として、上京警察署という一警察署だけの問題にせず、全 国規模での取組にすればどうか。 【警察】 全国規模とはいかないが、京都府警においては当該職員を含め、他の殉職 者全てに対する慰靈祭を年1回行い、彼らのことを忘れないように、もう二 度と殉職者を出さないようにと慰靈とともに誓いを立てている。 【委員】 事件発生から今年で41年になるとのことだが、初めてこの事件を知り驚 いている。私は現場近くの高校に通学していた。慰靈碑の存在も知らなかつた。 在校中、現場近くに立ち寄ったことがなかつたため、是非一度慰靈碑を見に行きたいと強く感じている。 私は春から新聞社に就職する。京都で勤務する訳ではないが、人に物事を	司会 副署長 司会 会長 ～広聴相談係長	

会議
内容

伝える仕事をする以上、本当に伝えるべきことは何か、そしてどのようにして伝え続けることができるかを今後考えていきたいと感じた。そのためには警察との連携が非常に大切だと思う。

犯人の元警察官に対しては、犯行時の精神状態はどのようなものであったのだろうかと考えさせられる。心のケアはできなかつたのかと思う。

【委員】私のように役場に勤める者は組織を守る立場として物事を考える。殉職者は現場に一人で向かっていた。複数で対応することはできなかつたのかという疑問が残る。

今の時世であれば、警察官の現在地が分かるシステムが開発されていなかつたのかと考える。その点はどうか。

【警察】現在は、事案対応は複数で行い、無線機にて出動先を告げることが基本となっている。当時、被害警察官は、勤務員の都合で一人勤務になっていた。そこに、犯人から110番通報ではない交番設置の電話に嘘の不審者申告を行い、おびき出された。

現在地が分かるシステムについては後で詳しく説明させていただく。

【委員】犯人は元警察官だったことから、警察内部の構造を熟知した上で隙を突いた卑劣な犯行だと感じる。

【委員】当時、私は6歳であったため事件を理解していなかつたが、改めて警察官は大変危険な仕事であると思う。毎年の追悼式には、私の勤務先の病院でも何かお手伝いや一緒に行えることがあれば良いと感じた。

(2) 質問事項説明

地域警察官の装備資機材～地域課長

【委員】多くの装備品を見せてもらった。こんなに沢山の種類があるとは思っていなかつた。手入れや交換、更新も大変だと思う。

装備については地域性を持たせた装備というものはあるのか。

「京都府警察ならではの装備」と言われるものはあるのか。

犯罪の特性によって装備が違うというものもあるのか。

【警察】素材、仕様などが一部他府県と異なる物もあるが、基本的には全国的にはほぼ同じ装備である。

【委員】無線機が2台あり、1台は話ができる無線機、もう1台は聞くだけの無線機と聞いた。例えば現場に行く場合、どちらの無線を優先させるのか。

【警察】話ができる無線機は当署員間の通信で、これは署内にある「指令室」が統括している。

聞くだけの無線機は「受令機」と呼ばれ、警察本部通信指令課が統括している。警察署の指令室は通信指令課と通信ができ、連絡をとっている。

またパトカーには通信指令課とも直接話ができる無線機が積載されているため、直接、通信指令課からの指令を受けている。

【委員】取り付けた装備はいつ着けているのか。家に持つて帰っているのか。

【警察】朝、出勤時に着装して勤務が終了するまで着装している。家に持つて帰ることはない。

会議
内 容

5 事務連絡

令和 7 年度第 3 回京都府上京警察署協議会は、令和 7 年 12 月上旬に実施予定である。

以上

第2回京都府上京警察署協議会の開催状況

